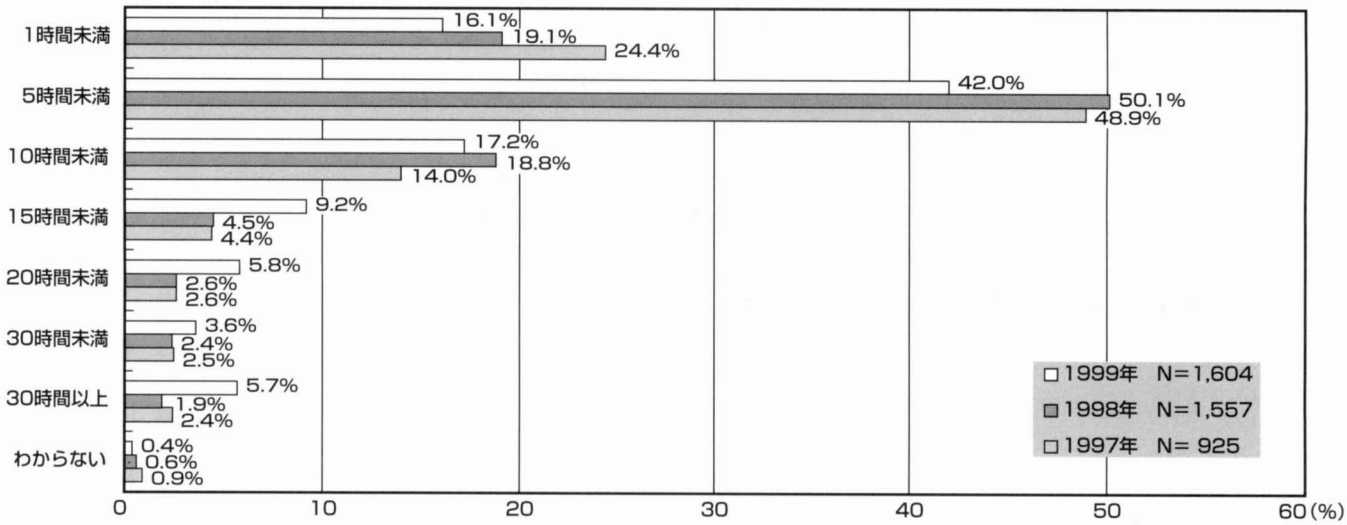
第 2 章　個人

利用時間（1）

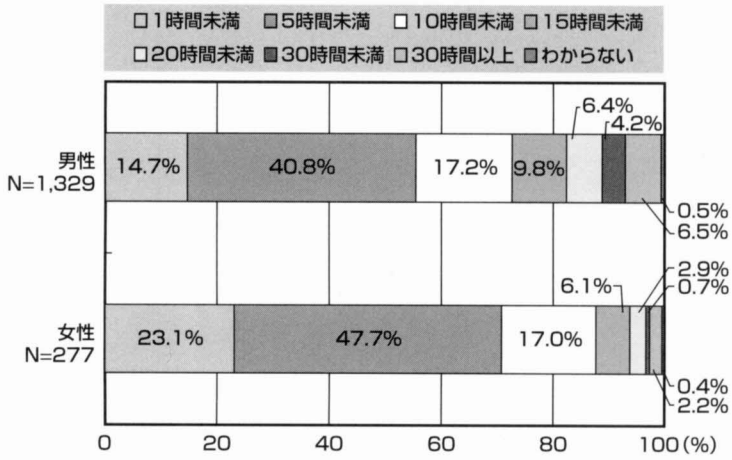
利用時間は徐々に長時間の傾向

資料1-2-24　1週間あたりの利用時間（1997年-1999年）



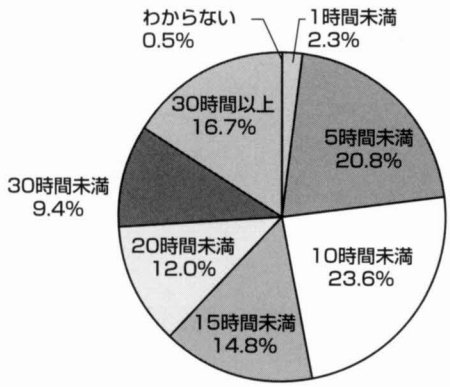
インターネット白書'99 ©インプレス,
Access Media International&IAJ, 1999

資料1-2-25　1週間あたりの利用時間（性別）



インターネット白書'99 ©インプレス,
Access Media International&IAJ, 1999

資料1-2-26　1週間あたりの利用時間（ウェブ回答者）　N=2,115



インターネット白書'99 ©インプレス,
Access Media International&IAJ, 1999

解 説

インターネットの1週間当たりの利用時間をここ3年間で比較してみると、全体的に徐々に長時間へと移行しているのがわかる。特に今回の調査では「10時間以上15時間未満」から「30時間以上」の全てのカテゴリーで増加している。利用時間が長くなってきているのは、先にみたように専用線接続や固定料金制のプロバイダー契約の利用者が増え、「繋ぎっぱなし」が可能となったことも大きな理由であると考えられる。

長時間の利用者が増加したことによって週に10時間未満の合計は1998年の88.0%から75.3%に減少した。しかし依然として最も多いのは「1時間以上5時間未満」と過去2年と変わってはおらず、1998年も42.0%を占めている。

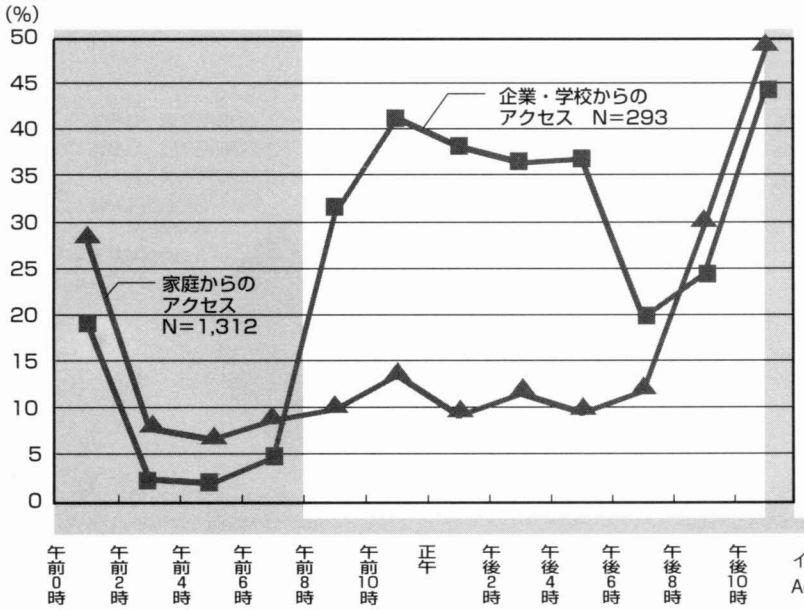
これを性別でみると、「1時間未満」、「1時間以上5時間未満」といった短い時間の利用では女性の比率が高く、ほぼ同率である「5時間以上10時間未満」を含めた週に10時間未満の合計は87.8%に上った。一方「10時間以上15時間未満」以降の長い時間では男性の比率が高く、週に10時間以上の合計が26.9%を占める結果となった。

『ウェブ回答者』の利用時間を見ると、最も大きな違いは「1時間未満」が圧倒的に少なく僅か2.3%という点である。また『一般』郵送回答者（以下『一般』とする）に比べると利用時間が分散しており「5時間以上10時間未満」（23.6%）、「1時間以上5時間未満」（20.8%）の次に「30時間以上」（16.7%）が高くなっている。

インターネット白書／ ©1996-2012 Impress R&D

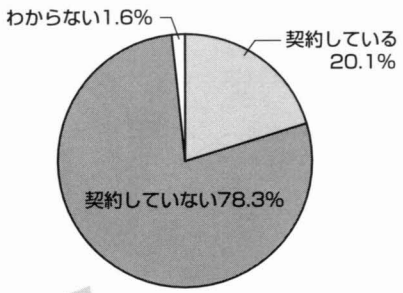
深夜定額料金サービスが日本のインターネット利用時間に影響

資料1-2-27　主な接続場所別利用時間帯（家庭/学校・企業）



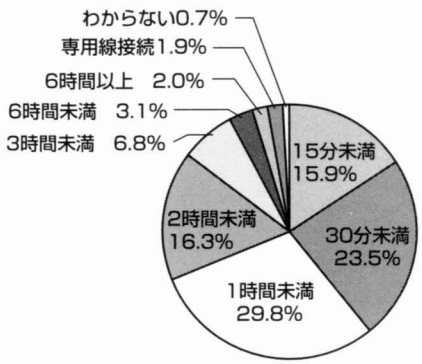
インターネット白書'99 ©インプレス,
Access Media International&IAJ, 1999

資料1-2-28　テレホーダイなどの利用の有無
N=1,606



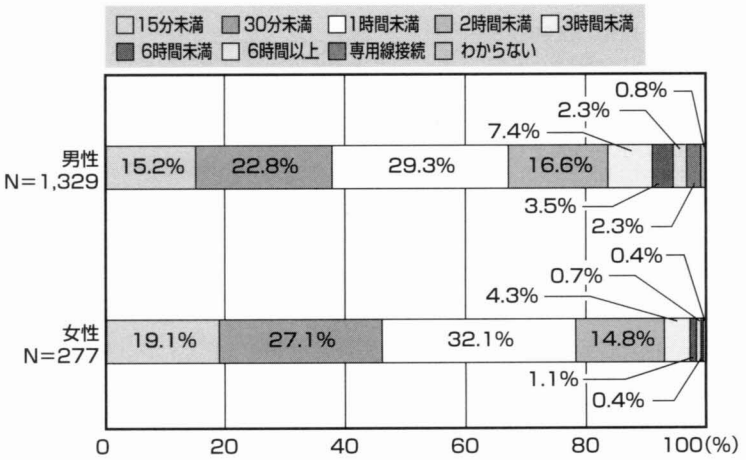
インターネット白書'99 ©インプレス,
Access Media International&IAJ, 1999

資料1-2-29　1回当たりの接続時間　N=1,606



インターネット白書'99 ©インプレス,
Access Media International&IAJ, 1999

資料1-2-30　1回当たりの接続時間（性別）



インターネット白書'99 ©インプレス,
Access Media International&IAJ, 1999

解説

接続場所別の利用時間帯を見ると、学校や企業からアクセスしている利用者は昼休みをピークに午前8時から午後6時までの就業時間帯全般で高くなっている。一方家庭からアクセスしている利用者は、午後10時以降急増し、午前4時までが利用のピークとなっている。これは電話料金が深夜定額料金となる「テレホーダイ」の影響が大きく、そのサービス時間帯での利用者が多くなっているためといえる。

この結果は欧米やアジア諸国と比較しても非常に特殊であり、日本では利用時間帯が、「利用したい時間」よりも電話料金の安い時間にシフトしているといえる。この傾向が続くとすれば、利用者の増加とともに、生活時間帯の変化や日中の生産性の低下などの副次的な影響も懸念される。前述の深夜定額料金となる「テレホーダイ」サービスの利用者自体は全体の約2割に過ぎないが、「テレホーダイ」利用者の半分以上が「午後10時～午前0時」（複数回答：65.6%）、「午前0時～午前2時」（複数回答：54.5%）と深夜に集中しており、「チャット／掲示板／電子会議室」を中心に「テレホーダイ」非利用者を巻き込んで深夜のインターネット利用を活性化していることが推測できる。

1回当たりの接続時間は今回初めてきいた質問である。最も多いのは「30分以上1時間未満」で全体の29.8%を占め、次いで「15分以上30分未満」（23.5%）が多い。これを性別でみると、女性の利用時間は相対的に短く、「1時間未満」までの合計は女性全体の約78%を占める。一方、男性の「1時間未満」までは約67%と、10ポイント程度の差がみられる。先にみたように、1週間当たりの利用時間数も男性が長かったが、男性のほうが仕事での利用が多いことや女性のコスト意識の高さなどが、利用時間の差を生んでいるのではないかと推測できる。

（矢野さよみ
アクセス メディア インターナショナル株式会社）

インターネット白書／ ©1996-2012 Impress R&D

［インターネット白書ARCHIVES］ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年〜2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

http://IWParchives.jp/

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- ●記載されている内容（技術解説、データ、URL、名称など）は発行当時のものです。
- ●収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者（執筆者、写真・図の作成者、編集部など）が保持しています。
- ●著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- ●このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- ●収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元（株式会社インプレスR&D）などの情報をご明記ください。
- ●オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D（初期は株式会社インプレス）と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接的および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先　株式会社インプレスR&D　✉ iwp-info@impress.co.jp

©1996-2012 Impress R&D, All rights reserved.